

鶏肉情勢

令和3年4月5日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和3年3月下旬実施)によると、2月の推計実績は、処理羽数57,382千羽(前年比96.2%)・処理重量174.1千ト(同97.7%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同97.1%)は0.9%下回ったものの、処理重量(同97.7%)は0.8%上回った。鳥インフルエンザの拡大や寒波による育成率の低下が反映されたと思われる。廃棄合計は4.22%と前年同月より0.23%下回った。 (2) 3月は処理羽数(前年比104.4%)・処理重量(同103.8%)とも前月時点の計画値(104.6%・103.9%)並み。4月は処理羽数(同100.9%)・処理重量(同100.5%)ともに前年を上回り、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同100.6%)は0.1%増加、処理重量(同100.4%)は0.1%増加と計画値並み。なお、日本種鶏孵卵協会の昨年12月末時点での種鶏導入調査結果によると、2021年次は4,792千羽、2021年度では4,791千羽と推計され、農水省の統計結果の実績に対し年次で同0.4%減少、年度では同1.4%減少が見込まれる。さらにひな生産能力の減少が見込まれ、コマーシャル素ひなえ付羽数を前年比1.5%増と仮定すると、年間11,250千羽不足が見込まれる計算となる。
	2. 輸入 (1) 財務省3月30日公表の貿易統計によると、2月の鶏肉(原料肉)輸入量は45.5千ト(前年比103.6%)で、日本食肉輸出協会の子測(44.80千ト)を約0.7千ト上回り、国別ではブラジルが全輸入量の65%と7割を切る落ち込みで29.8千ト(同95.3%)、逆にタイは13.3千ト(同126.8%)となり、輸入シェアの約29%まで伸長した。価格については輸入品(鶏肉調整品を除く)全体で平均193.5円/kgと前年同月比で78%と低水準となっている。同協会では3月の輸入を約44.6千ト(前年比4.5%減)、4月を約44.8千ト(前年比4.1%減)と見込み、新型コロナウイルスの流行による外食需要の落ち込みを受けて、2か月連続で前年実績を下回ると予測している。4月はタイ、米国からの輸入量は増加が見込まれるがブラジルからの輸入量は減少の見込み。 (2) 鶏肉調整品の2月輸入量は34.2千ト(前年比107.1%)と、前月より約0.5千ト増加した。国別ではタイ産が前年比86.7%の約21.6千トで大きく減少し、一方で中国産は前年比185.3%の約12.2千ト大幅な増加となった。今後の外食関係、夏場の需要も見据え、中国産の商品についてはやきとり関係の輸入量が増加しているとも予測できる。回復の兆しが見えつつあるが長引く業務筋からの需要の落ち込みを反映しているが、3月以降についても、不透明かつ流動的で中国国内の動向次第と思われる。
産	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、令和3年1月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は4,152g(前年比115.3%)、金額も6,206円(同113.2%)と、ともに前年を上回った。畜種別でみると牛肉は数量(同115%)・金額(同112.6%)ともに上回り、豚肉も数量(同114.5%)・金額(同114%)ともに上回った。鶏肉についても同様に、1月に入ってもテーブルミート等での購入が活発で数量(同116.5%)・金額(同112.2%)とも前年を上回り、全体的に数量の伸び率が高かった。また加工品については加工肉全般で金額(同110.3%)が前年を上回っている。4月～5月の行楽シーズンで加工肉の動きがどうなるかは不透明な部分もある。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和3年2月の食品売上高は全店ベースで前年比99.6%と昨年度を下回った。一方で生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比103%、既存店ベースでも同102.1%と上回った。畜産部門の売上高は1,047億円で全店ベース(同101.1%)、既存店ベース(同100.3%)とも前月に続き前年を上回った。「緊急事態宣言発令に伴う自宅調理傾向の高まりは継続しているものの、うるう年の翌年にあたり営業日が一日少ない影響や、前年この時期から保存性の高い食品の需要が増加した反動もみられ、やや伸び悩んだ。豚肉や鶏肉は気温上昇で鍋用は不振となったがそれ以外は堅調に推移した。国産相場が上昇しており、輸入品を拡張する動きもみられた」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同101.2%)は前年を上回り、既存店ベース(同100.4%)でも上回った。「中食ニーズにはやや回復傾向もみられており、米飯類やサラダ関連が好調となった。家飲み向けの焼鳥やつまみ類は引き続き堅調に推移している。駅弁フェアなど遠出できないお客様に向けたイベントが好調である一方、通勤客減少の影響を受けた夕方以降の来店客数減少、ばら売り中止による揚げ物の販売点数減などの苦戦も続いている」と報告があった。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和3年1月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.7%の4,089千トとなった。うち国内物は同99%の3,33千トと僅かに下回り、輸入物は同123.4%の0,76千トと上回った。鶏肉加工品も一時的に減少はしたものの1月以降も引続き家庭内需要や中食需要があり、国産原料の市況価格は高止まりしているが、中国等からの調整品輸入が減少していることを考えると国産物での製造量回復が期待できると思われる。また、唐揚げをメインにした専門店等の出店も多くあり、国産・輸入品ともに今後数量拡大の兆しもみられる。
在	1. 令和2年(2021年)1月 (1) 推計期末在庫は国産26.5千ト(前年比90.4%・前月差△0.3千ト)、輸入品129.5千ト(同93.0%・同+5.2千ト)と合計で156千ト(同92.5%・同+4.9千ト)となった。前月に比べ生産量が20.1千ト減少し、輸入量は6.2千ト増加した。国産品は出回り量が133.8千トで生産量を上回っているが在庫はわずかに減少している。輸入品は、出回り量が6.1千ト減少し、43.6千トとなり、輸入品の在庫は129.5千トで(前年比94.7%・前月差+5.3千ト)増加した。3か月連続で国産・輸入合計の在庫が150千ト台となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(令和3年3月29日公表)では、令和3年3月の国内生産量が2月と比較すると、142.2千トで12.4千ト増加し、輸入量は前月比で約0.7千ト減少、出回り量については前月比で約11.8千ト増加するため期末在庫は約158.3千トと前月より約1.1千ト増加はするが、前年(169.3千ト)より約7.1%減少の見通しとなっている。 (2) 生産量は、鶏肉生産量の約9割を占めるブロイラーの生産動向が大きく影響し、3月は前年同月をやや上回る一方、4月は約138千トと予測し、前年同月をわずかに下回る見込み。輸入量は3月は前年同月の輸入量が多かったことから、タイおよび米国からの輸入量は増えるもののブラジルからの輸入量が減少すると見込まれる。
相	1. 令和3年2月動向 (1) 令和3年3月の月平均相場は、もも肉691円/kg(前月比△10円)・むね肉304円/kg(同△1円)正肉合計で995円/2kgと前月比で11円下回るも、前年比では177円上回った。もも肉は月初694円で始まり、上げ下げを繰り返して、月末687円と7円安となった。1月をピークに徐々に下げ基調となっている。むね肉も月初299円で始まり、300円台を維持しながら、月末305円の6円高となり、少し上げ基調の兆しもあるなかで月平均で300円台を維持した。
	2. 見通し (1) 気象庁発表の向こう1か月の見通しによると、4月の気温は、全国的に平年より高くなるとの予報。コロナ禍が続く中、鍋物商材は少なくなり、春夏商品が多くなっているが全体的な売れも良くなく、もも肉はやや下げ基調で推移し、月平均680円と予測する。むね肉についても、もも肉に付随し、加工筋からの引合いも堅調で、タイ産むね肉の動向が不透明ではあるが現状の相場を維持し、月平均300円と予測する。 (2) 首都圏での緊急事態宣言は解除されたが新型コロナウイルスの猛威は衰えておらず、また、鳥インフルエンザも3月に入り新たに首都圏の事例もあったことから、引き続き警戒が必要である。鶏肉生鮮相場は若干、需給が緩むが、内食需要に支えられ、例年よりも高水準での推移が見込まれる。

生産状況									実績					
履歴	R3年2月推計実績								R3年3月計画		R3年4月計画		R3年5月計画	
	数量		前年比		数量		前年比		数量		前年比			
	入雛羽数	59,856	96.8%	63,773	102.9%	65,305	103.0%	63,411	101.4%					
処理羽数	57,382	96.2%	64,545	104.4%	62,429	100.9%	61,306	102.7%						
処理重量	174.1	97.7%	191.9	103.8%	186.6	100.5%	183.6	102.6%						

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年11月	45.3	48.8	92.8	42.7	45.2	94.6	88.0	94.0	93.7	51.5	48.5
R2年12月	42.7	44.9	95.1	44.1	46.9	94.1	86.8	91.8	94.6	49.2	50.8
R3年1月	48.9	41.6	117.6	33.7	39.3	85.7	82.6	80.9	102.1	59.2	40.8
R3年2月	45.5	43.9	103.6	34.2	31.9	107.1	79.7	75.8	105.1	57.1	42.9
R3年累計	94.4	85.5	110.4	67.9	71.2	95.4	162.3	156.7	103.6	58.2	41.8

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)							相場(年別・暦年)			
履歴	数量			金額			単位:円			
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	もも肉	むね肉	計	
R2年11月	1,498	1,452	103.2	1,425	1,309	108.9	H26年	626	294	920
R2年12月	1,839	1,625	113.2	1,763	1,605	109.8	H27年	638	336	974
R3年1月	1,582	1,358	116.5	1,469	1,309	112.2	H28年	621	255	876
R2年平均	1,565	1,410	111.0	1,440	1,299	110.9	H29年	626	315	941
							H30年	595	282	877
							R元年	585	243	828
							R2年	614	269	883

※参考資料:総務省統計局HP

在庫状況(推定)									
履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年10月	26.8	29.3	91.5	134.1	137.9	97.3	160.9	167.2	96.3
R2年11月	26.4	28.6	92.5	131.3	137.6	95.4	157.7	166.2	94.9
R2年12月	26.8	28.2	95.3	124.3	133.6	93.0	151.1	161.8	93.4
R3年1月	26.5	29.3	90.4	129.5	139.3	93.0	156.0	168.6	92.5

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別)									
品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年12月	687	606	113.4	311	266	116.9	998	872	114.4
R3年1月	711	622	114.3	314	262	119.8	1025	884	116.0
R3年2月	701	597	117.4	305	253	120.6	1006	850	118.4
R3年3月	691	575	120.2	304	243	125.1	995	818	121.6
R3年4月	(680)	581	117.0	(300)	241	124.5	(980)	822	119.2
R3年5月	(660)	609	108.4	(300)	254	118.1	(960)	863	111.2
R3年平均	701	610	114.9	308	258	119.3	1,009	868	116.2

※()は見通し

※1-3月平均